

六角堂復興プロジェクトの記録



- 平成23(2011)年3月11日 東北地方太平洋沖地震とそれに伴う津波によって、国登録有形文化財「五浦六角堂」が流失[写真①]
- 5月 9日 茨城大学の岡倉天心記念六角堂等復興基金設立
- 5月12日 茨城大学、茨城県(天心記念五浦美術館)、北茨城市、財団法人日本ナショナルトラスト、岡倉天心偉績顕彰会による五者協議
- 6月 6日 第1回 海底調査
- 6月14日 第2回 海底調査[写真②]
- 6月20日 第3回 海底調査[写真③]
- 9月15日 第4回 海底調査
- 7月 7日 第1回 茨城県建築士会と茨城大学の再建合同打合せ会議
- 7月20日 第2回 茨城県建築士会と茨城大学の再建合同打合せ会議
- 8月22日 第3回 茨城県建築士会と茨城大学の再建合同打合せ会議
- 9月13日 第4回 茨城県建築士会と茨城大学の再建合同打合せ会議
- 11月 2日 第5回 茨城県建築士会と茨城大学の再建合同打合せ会議
- 11月15日 立木(原木)の伐採[写真④]
- 11月18日 工事契約締結(松井リフォーム株式会社)
- 11月21日 起工式[写真⑤]
- 平成24(2012)年3月27日 上棟式[写真⑥]
- 4月17日 竣工式[写真⑦]

六角堂復興の他、天心邸、長屋門の修復も行っています。
さらに、地域振興のため日本美術院研究所の再建や、今回の災害を後世に伝えるために、海底調査によって引き上げられた品々や、復興までの記録を展示する復興記念館の建設を視野に入れ、六角堂を中心とした五浦地区全体の復興を計画しています。

岡倉天心記念六角堂等復興基金の申込み手続きについて

- 1 「寄附金申込書」に所要事項を記入のうえ、下記のお問い合わせ先にFAX、郵送またはE-mailにてお送り願います。
- 2 お送りいただいた「寄附金申込書」にご記載の金額を、下記口座のいずれかへお振込み頂きたくお願い申し上げます。

銀 行 名	常陽銀行 本店営業部
店 番 号	0 0 4
口座番号	普通 3 5 9 3 4 5 3
口 座 名	国立大学法人茨城大学 岡倉天心記念六角堂等復興基金 学長 池田幸雄 コクリツダイガクホウジンイバラキダイガク オカクラテンシンキネンロツカドウトウフッコウ キキン ガクチョウイケダユキオ

銀 行 名	筑波銀行 水戸営業部
店 番 号	1 0 1
口座番号	普通 1 0 5 5 2 2 4
口 座 名	国立大学法人茨城大学 岡倉天心記念六角堂等復興基金 学長 池田幸雄 コクリツダイガクホウジンイバラキダイガク オカクラテンシンキネンロツカドウトウフッコウ キキン ガクチョウイケダユキオ

※ご寄附をいただいた方のお名前を明記したプレートを、復興記念館(仮称)に掲示いたします。

税法上の措置及び
預り書(領収書)の
発行について

募金者は、所得税法及び法人税法の「国又は地方公共団体に対する寄附金」に該当しますので、税法上の優遇措置を受けることができます。また、住民税法の優遇措置も受けることもできます。税法上の優遇措置を受けられる方は、本学が寄附金の入金確認後にお送りする「寄附金領収書」を添えて所轄税務署に確定申告していただく必要がありますので大切に保管してください。例えば、個人の方の場合、その年中に寄附した寄附金の合計額が2,000円(住民税の場合は5,000円)を超えた場合には、その超えた金額に対して控除が適用されます。

お問
い合
わせ

茨城大学学術企画部社会連携課地域連携係

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1 TEL.029-228-8781 FAX.029-228-8586
E-mail:renkei@mx.ibaraki.ac.jp [月～金曜日(祝祭日を除く)8:30～17:15]

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.ibaraki.ac.jp/>



天心・六角堂
復興プロジェクト



茨城大学
Ibaraki University

日本の美を守り、 育て、世界へ。



岡倉天心

岡倉天心記念六角堂等復興基金について

東日本大震災から1年余。幾多の人々の熱き思いを受け、平成24(2012)年4月17日、五浦海岸に天心六角堂が力強く蘇りました。再建・復興にご協力いただきました多くの皆様に心から御礼申し上げます。六角堂を中心とした五浦地区全体の復興こそが「東日本大震災」の復興のシンボルになり得ると信じて努力してまいりました。今後はさらに、震災・復興の記録を後世に残すための記念館の建設、日本美術院研究所の再建等も視野に入れ、六角堂を中心とした文化財の維持管理にも努力していく必要があります。これらの趣旨をご理解の上、引き続き本基金に多くの方々のご理解とご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

明治38年、西洋文明が台頭していた時代、
東洋文明と日本美術を守ろうとした
岡倉天心の強烈な情熱が充満していた
創建当時の六角堂を
感じていただければ幸いです。



岡倉天心(本名覚三、1863～1913)は、生涯の前半を文部官僚として近代日本の美術行政の確立に尽力し、若くして博物館部長、東京美術学校(現東京芸術大学)校長の要職を兼務していた。しかし、明治31(1898)年に職を辞して、賛同する仲間や教え子らと日本美術院を創設した。革新的な日本画を世に送り出したが、その斬新さが当時の鑑賞界に受け入れられず危機的状況を迎えていた。

そこで明治39(1906)年に日本美術院を再編成して、横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山を五浦に呼び寄せ、日本画の近代化を目指した美術活動を指導し、明治40(1907)年の文部省美術展覧会で復活を果たした。これが日本美術院の「五浦時代」と呼ばれる画期であった。

天心はなぜこの地に居を求めたのか。明治36(1903)年5月、天心は、茨城県磯原町出身の画家飛田周山の案内で、海岸の別荘を探し求めていた。福島県いわき市の沿岸にやってきたが気に入らず、帰途立ち寄ったのが五浦だという。天心は、白砂青松の海岸線よりも、ダイナミックで変化に富んだ五浦の景観に魅了され、早速土地を購入した。当初は「観浦楼」という古い料亭を住居としていたが、明治38(1905)年には、みずからの設計により邸宅を改築し六角堂を建築した。

明治時代に天心が実際に生活した建築物は、この五浦の六角堂、長屋門、天心邸のみである。この3棟は、歴史的景観として平成15(2003)年に登録文化財に認定されているが、六角堂については、2011年3月11日の津波による流失で登録有形文化財としての認定は抹消されている。

